

疑問を感じて 学ぶ楽しさを知る

この学科のこの教授に聞くノ スペシャル

加藤哲郎

一橋大学社会学部教授

有村かおり

聞き手ノTBSキャスター



JANUARY 1997 NO.419

教授法の見直し 進む

有村 実はあまりまじめな大学生ではなかったのですが、きょうは適役ではないかもしれませんが(笑)、よろしく願いいたします。

加藤 こちらも同じく(笑)。

学生運動のさなかで、授業を受けないで騒いでいた側ですからね(笑)。その頃、つまり1960年代は、大学の進学率が10%から24%に伸びた、変化の激しい過渡的な時代だったんですね。いまは約40%と、僕たち団塊の世代の倍に増えた。

有村 それなのに、大学でみっちり学んだ充実感を持っている学生が4割にも満たないというのはちょっと問題ですね。

加藤 そうですね。大学側の問題でいえば、これはまず教授法にあったといえます。大学では小・中・高の教授法のような特に決まった方法論があるわけではなく、すべて個々人の教師に任せられるんです。そこに戦前の、進歩率がまだ3%だった頃の内容とスタイルを、連続と受け継いできた流れがあったんですね。

当然のことながら、いまの学生たちには合わないようになってしまった。

有村 何年も使っているノートをただ再読ししている先生、いましたよね。先輩のノートを借りると、同じところに同じジョークが書いてあったりして(笑)。

加藤 そこで教授法については、若い教師を中心にいろいろ動きが出てきました。たとえば、教師同士がお互いの授業を見学して検討したり、OHP(オーバーヘッドプロジェクター)やビデオを使って授業を行ったり。技術的なことも含めて、学生が受け入れやすい形ができてきていますから、その点については満足度はアップすると思いますね。

有村 日本の大学は、先生たちが研究をする場所で、学生たちに教えるのはサイドワークといった感じが長い間ありましたよね。

加藤 いまでもそういう部分は強いですが、加藤というも、我々大学教師のリクルートは、専門分野における研究業績の評価によるわけなんです。教授となつて



かとう・てつろう
1947年、岩手県生まれ。法学博士。70年、東京大学社会学部卒業後、出版社勤務を経て、81年に一橋大学助教授になり、89年より現職。「社会と国家」(岩波書店)「企業社会と価値観」(共著、福原書店)「現代日本のリズムとストレス——エルゴロジーの政治学序説」(花伝社)ほか多数。一橋大生の間では通称「カトデツ」。

知って欲しいのは 学ぶことの楽しさ

有村 私、少人数制の講義というのはぜひ以外では体験しなかったですね。

加藤 ただ、問題は教師の側だけではなくて、学生諸君のほうにもあります。

有村 そうですね(笑)。

加藤 大学は高等教育の場であり、戦前は超エリート層の養成機関。たとえば一橋大学でいうと、1年生は全員、アダム・スミスを原書で読めることを前提に、カリキュラムが組まれていたわけです。

有村 怖い……(笑)。





ありむら・かおり
鹿児島市生まれ。TBSキャスター。東京大学文学部在学中に、米・マカレスト大学に留学。東大卒業後、「感動を伝える仕事に就きたい」と83年、TBS入社。即位の礼やソビエトでの宇宙飛行取材、「筑紫哲也ニュース23・第2部」など、報道を中心に活躍。現在は「フラッシュニュース」(月～金 20:55～)担当。

間もなく始まるというところから大学生活。でも、ほんとに知らない。大学のことは、そんな代ゼミ生のために、大学改革の現状と行方、先生がたの工夫と苦悩、新一年生に期待されていることなど、日本の大学のことをおしなべて聞いてみた。

一橋大学の加藤哲郎教授に、TBSのキャスター、有村かおりさんがインタビュー。

さすが、一橋大生の人気投票でタレント一位の加藤先生、なめらかで熱のこもったお話しがグイグイ引き込まれ、東京大学の後輩にあたる有村さんも、自らの大学時代を披露、実に多き新書大学談話となった。

加藤 そうですね。でも我々は、それに近い期待を持っているんです。ところがその「回路」が、いまの高校までの教育では用意されていないんです。で、岩波書店の新書くらいは読んできて、という前提で話すんですけど、やはり教師が伝えたい論理のレベルと、学生がそれまで蓄積してきた知識の水準のギャップが大きすぎて、伝わらない。そこでこちらからは、彼らの専門分野への入り口となる回路を見つけて工夫をするわけです。

有村 たとえばどのような……?

加藤 まずは、ビデオやポルターージュを用いたり、フックレットを用意したりといった方法。後は、昔の理論をそのまま展開しても分かりにくいので、身近な話に置き換えて新しいスタイルの回路を提起する。それが、学生がテレビやマンガや新聞から得た問題意識とフィットすればいいんですが、実はフィットしない学生のほうが圧倒的に多いですね。

有村 それは学生の意欲の問題でもあるんでしょうか?

加藤 勉強は大学合格からガリという考え方があって、すね。会社に入ってから4年間くらいは休ませてよ。という学生たちに、体系だった知識を身につける意欲を持たせるまでの教育が、実は大変なんです。だから受験生には是非、何か疑問を持つ



4・5月号でも紹介した加藤先生の研究室。そのあふれんばかりの蔵書に、有村さんの目がきらきらと大きく広がった

有村 東京大学は専攻を決めるのに2年間猶予があるので、私は何も考えずに入ったんです。ところがそこは私には大きすぎる大学で、まさに大海に砂一粒放り込まれたような孤独感があった……学ぶ楽しみを見つけないところではなかった

自由度がうらやましい 欧米の大学

加藤 そうですね。でも我々は、それに近い期待を持っているんです。ところがその「回路」が、いまの高校までの教育では用意されていないんです。で、岩波書店の新書くらいは読んできて、という前提で話すんですけど、やはり教師が伝えたい論理のレベルと、学生がそれまで蓄積してきた知識の水準のギャップが大きすぎて、伝わらない。そこでこちらからは、彼らの専門分野への入り口となる回路を見つけて工夫をするわけです。

有村 たとえばどのような……?

で大学に入ってから欲しいと思えますね。そして我々が話している内容そのものよりも、学ぶことの楽しさを知って欲しいんです。新しい知識を得て、それを理解することの楽しさを伝えられれば、僕は大学の教育としては成功だと思っています。

有村 でも、これでもかという詰め込み式の授業を受け、疑問をぶつける暇さえ与えられないままの学生たちになれば、とまどい大きいのではありませんか?

加藤 その通りです。自由論議はいやがりますね。一橋大学では全員が卒業論文を書くのですが、テーマを見つけた時点ですでに1/3は出来上がり。そして、調査や考える作業で1/3、書いて仕上げの作業で1/3、という力配分がいい。4年間のまとめとして「これだけはやってみたい」ことを見つけてきたことを、とても評価するようにしています。テーマは本当に何でも構わないんですよ。

有村 マカレストという小さなカレッジに行ったのですが、まず、授業が10人から30人の単位で行われる。だから先生と生徒が話ができる。アサインメント(宿題)は1つ1つあるんですが、その代わり必修は少ない。3年生の単位を1年生で取ることもできる。このあたりの自由度と、学生を人間的にサポートする体制が大学の中にあるという点で、日本の大学との大きな差を感じました。きつかけられ、とてもいい経験でした。

加藤 留学は僕もよく経験しました。まず、各大学とも交換留学などの制度を取り入れて、受け入れも送り出しも活発に行っています。欧米の大学では「タスク」の運転手をしてお金を貯蓄したから大学に入るんだ」なんていう人もいて、学生の年齢に幅がある。学生同士で世代間交流ができる自由さは、非常にうらやましいですね。

有村 その点でいえば、日本の場合は労働市場の特性が大学のありかたに大きな影響を与えてしまっている……。

加藤 学年一括採用が一番の問題ですね。採用にもっとバラエティが出てくればいいんですが、これは企業側の改革を待つしかないようです。

有村 カリキュラムの刷新が進んでいるのか、おもしろそうなタイトルの講義がいろいろあるんですね。

加藤 80年代に入ってから始まった大学改革は、そもそもカリキュラムの改革から始まったんです。学生たちが自分の関心事を自由に学べるよう、●教養部の廃止、●必修を減らして「アラカルト」方式とか「カフェテリア」方式と呼んでいる。自由度の高い単位取得システムの導入、●講義内容自体の刷新などが進められています。新しい学問領域をカバーする講義も増えていて、たとえば、女性問題を扱う講義は多くの大学で特殊講義の形で始

有村 マカレストという小さなカレッジに行ったのですが、まず、授業が10人から30人の単位で行われる。だから先生と生徒が話ができる。アサインメント(宿題)は1つ1つあるんですが、その代わり必修は少ない。3年生の単位を1年生で取ることもできる。このあたりの自由度と、学生を人間的にサポートする体制が大学の中にあるという点で、日本の大学との大きな差を感じました。きつかけられ、とてもいい経験でした。

加藤 留学は僕もよく経験しました。まず、各大学とも交換留学などの制度を取り入れて、受け入れも送り出しも活発に行っています。欧米の大学では「タスク」の運転手をしてお金を貯蓄したから大学に入るんだ」なんていう人もいて、学生の年齢に幅がある。学生同士で世代間交流ができる自由さは、非常にうらやましいですね。

有村 その点でいえば、日本の場合は労働市場の特性が大学のありかたに大きな影響を与えてしまっている……。

加藤 学年一括採用が一番の問題ですね。採用にもっとバラエティが出てくればいいんですが、これは企業側の改革を待つしかないようです。

有村 カリキュラムの刷新が進んでいるのか、おもしろそうなタイトルの講義がいろいろあるんですね。

加藤 80年代に入ってから始まった大学改革は、そもそもカリキュラムの改革から始まったんです。学生たちが自分の関心事を自由に学べるよう、●教養部の廃止、●必修を減らして「アラカルト」方式とか「カフェテリア」方式と呼んでいる。自由度の高い単位取得システムの導入、●講義内容自体の刷新などが進められています。新しい学問領域をカバーする講義も増えていて、たとえば、女性問題を扱う講義は多くの大学で特殊講義の形で始

有村 マカレストという小さなカレッジに行ったのですが、まず、授業が10人から30人の単位で行われる。だから先生と生徒が話ができる。アサインメント(宿題)は1つ1つあるんですが、その代わり必修は少ない。3年生の単位を1年生で取ることもできる。このあたりの自由度と、学生を人間的にサポートする体制が大学の中にあるという点で、日本の大学との大きな差を感じました。きつかけられ、とてもいい経験でした。

加藤 留学は僕もよく経験しました。まず、各大学とも交換留学などの制度を取り入れて、受け入れも送り出しも活発に行っています。欧米の大学では「タスク」の運転手をしてお金を貯蓄したから大学に入るんだ」なんていう人もいて、学生の年齢に幅がある。学生同士で世代間交流ができる自由さは、非常にうらやましいですね。

有村 その点でいえば、日本の場合は労働市場の特性が大学のありかたに大きな影響を与えてしまっている……。

加藤 学年一括採用が一番の問題ですね。採用にもっとバラエティが出てくればいいんですが、これは企業側の改革を待つしかないようです。

有村 カリキュラムの刷新が進んでいるのか、おもしろそうなタイトルの講義がいろいろあるんですね。

加藤 80年代に入ってから始まった大学改革は、そもそもカリキュラムの改革から始まったんです。学生たちが自分の関心事を自由に学べるよう、●教養部の廃止、●必修を減らして「アラカルト」方式とか「カフェテリア」方式と呼んでいる。自由度の高い単位取得システムの導入、●講義内容自体の刷新などが進められています。新しい学問領域をカバーする講義も増えていて、たとえば、女性問題を扱う講義は多くの大学で特殊講義の形で始

有村 マカレストという小さなカレッジに行ったのですが、まず、授業が10人から30人の単位で行われる。だから先生と生徒が話ができる。アサインメント(宿題)は1つ1つあるんですが、その代わり必修は少ない。3年生の単位を1年生で取ることもできる。このあたりの自由度と、学生を人間的にサポートする体制が大学の中にあるという点で、日本の大学との大きな差を感じました。きつかけられ、とてもいい経験でした。

加藤 留学は僕もよく経験しました。まず、各大学とも交換留学などの制度を取り入れて、受け入れも送り出しも活発に行っています。欧米の大学では「タスク」の運転手をしてお金を貯蓄したから大学に入るんだ」なんていう人もいて、学生の年齢に幅がある。学生同士で世代間交流ができる自由さは、非常にうらやましいですね。

有村 その点でいえば、日本の場合は労働市場の特性が大学のありかたに大きな影響を与えてしまっている……。

加藤 学年一括採用が一番の問題ですね。採用にもっとバラエティが出てくればいいんですが、これは企業側の改革を待つしかないようです。

有村 カリキュラムの刷新が進んでいるのか、おもしろそうなタイトルの講義がいろいろあるんですね。

加藤 80年代に入ってから始まった大学改革は、そもそもカリキュラムの改革から始まったんです。学生たちが自分の関心事を自由に学べるよう、●教養部の廃止、●必修を減らして「アラカルト」方式とか「カフェテリア」方式と呼んでいる。自由度の高い単位取得システムの導入、●講義内容自体の刷新などが進められています。新しい学問領域をカバーする講義も増えていて、たとえば、女性問題を扱う講義は多くの大学で特殊講義の形で始

有村 マカレストという小さなカレッジに行ったのですが、まず、授業が10人から30人の単位で行われる。だから先生と生徒が話ができる。アサインメント(宿題)は1つ1つあるんですが、その代わり必修は少ない。3年生の単位を1年生で取ることもできる。このあたりの自由度と、学生を人間的にサポートする体制が大学の中にあるという点で、日本の大学との大きな差を感じました。きつかけられ、とてもいい経験でした。

加藤 留学は僕もよく経験しました。まず、各大学とも交換留学などの制度を取り入れて、受け入れも送り出しも活発に行っています。欧米の大学では「タスク」の運転手をしてお金を貯蓄したから大学に入るんだ」なんていう人もいて、学生の年齢に幅がある。学生同士で世代間交流ができる自由さは、非常にうらやましいですね。

有村 その点でいえば、日本の場合は労働市場の特性が大学のありかたに大きな影響を与えてしまっている……。

加藤 学年一括採用が一番の問題ですね。採用にもっとバラエティが出てくればいいんですが、これは企業側の改革を待つしかないようです。

有村 カリキュラムの刷新が進んでいるのか、おもしろそうなタイトルの講義がいろいろあるんですね。

加藤 80年代に入ってから始まった大学改革は、そもそもカリキュラムの改革から始まったんです。学生たちが自分の関心事を自由に学べるよう、●教養部の廃止、●必修を減らして「アラカルト」方式とか「カフェテリア」方式と呼んでいる。自由度の高い単位取得システムの導入、●講義内容自体の刷新などが進められています。新しい学問領域をカバーする講義も増えていて、たとえば、女性問題を扱う講義は多くの大学で特殊講義の形で始

有村 マカレストという小さなカレッジに行ったのですが、まず、授業が10人から30人の単位で行われる。だから先生と生徒が話ができる。アサインメント(宿題)は1つ1つあるんですが、その代わり必修は少ない。3年生の単位を1年生で取ることもできる。このあたりの自由度と、学生を人間的にサポートする体制が大学の中にあるという点で、日本の大学との大きな差を感じました。きつかけられ、とてもいい経験でした。

加藤 留学は僕もよく経験しました。まず、各大学とも交換留学などの制度を取り入れて、受け入れも送り出しも活発に行っています。欧米の大学では「タスク」の運転手をしてお金を貯蓄したから大学に入るんだ」なんていう人もいて、学生の年齢に幅がある。学生同士で世代間交流ができる自由さは、非常にうらやましいですね。

有村 その点でいえば、日本の場合は労働市場の特性が大学のありかたに大きな影響を与えてしまっている……。

加藤 学年一括採用が一番の問題ですね。採用にもっとバラエティが出てくればいいんですが、これは企業側の改革を待つしかないようです。

有村 カリキュラムの刷新が進んでいるのか、おもしろそうなタイトルの講義がいろいろあるんですね。

加藤 80年代に入ってから始まった大学改革は、そもそもカリキュラムの改革から始まったんです。学生たちが自分の関心事を自由に学べるよう、●教養部の廃止、●必修を減らして「アラカルト」方式とか「カフェテリア」方式と呼んでいる。自由度の高い単位取得システムの導入、●講義内容自体の刷新などが進められています。新しい学問領域をカバーする講義も増えていて、たとえば、女性問題を扱う講義は多くの大学で特殊講義の形で始

有村 マカレストという小さなカレッジに行ったのですが、まず、授業が10人から30人の単位で行われる。だから先生と生徒が話ができる。アサインメント(宿題)は1つ1つあるんですが、その代わり必修は少ない。3年生の単位を1年生で取ることもできる。このあたりの自由度と、学生を人間的にサポートする体制が大学の中にあるという点で、日本の大学との大きな差を感じました。きつかけられ、とてもいい経験でした。

加藤 留学は僕もよく経験しました。まず、各大学とも交換留学などの制度を取り入れて、受け入れも送り出しも活発に行っています。欧米の大学では「タスク」の運転手をしてお金を貯蓄したから大学に入るんだ」なんていう人もいて、学生の年齢に幅がある。学生同士で世代間交流ができる自由さは、非常にうらやましいですね。

有村 その点でいえば、日本の場合は労働市場の特性が大学のありかたに大きな影響を与えてしまっている……。

加藤 学年一括採用が一番の問題ですね。採用にもっとバラエティが出てくればいいんですが、これは企業側の改革を待つしかないようです。

有村 カリキュラムの刷新が進んでいるのか、おもしろそうなタイトルの講義がいろいろあるんですね。

加藤 80年代に入ってから始まった大学改革は、そもそもカリキュラムの改革から始まったんです。学生たちが自分の関心事を自由に学べるよう、●教養部の廃止、●必修を減らして「アラカルト」方式とか「カフェテリア」方式と呼んでいる。自由度の高い単位取得システムの導入、●講義内容自体の刷新などが進められています。新しい学問領域をカバーする講義も増えていて、たとえば、女性問題を扱う講義は多くの大学で特殊講義の形で始

有村 マカレストという小さなカレッジに行ったのですが、まず、授業が10人から30人の単位で行われる。だから先生と生徒が話ができる。アサインメント(宿題)は1つ1つあるんですが、その代わり必修は少ない。3年生の単位を1年生で取ることもできる。このあたりの自由度と、学生を人間的にサポートする体制が大学の中にあるという点で、日本の大学との大きな差を感じました。きつかけられ、とてもいい経験でした。

加藤 留学は僕もよく経験しました。まず、各大学とも交換留学などの制度を取り入れて、受け入れも送り出しも活発に行っています。欧米の大学では「タスク」の運転手をしてお金を貯蓄したから大学に入るんだ」なんていう人もいて、学生の年齢に幅がある。学生同士で世代間交流ができる自由さは、非常にうらやましいですね。

有村 その点でいえば、日本の場合は労働市場の特性が大学のありかたに大きな影響を与えてしまっている……。

加藤 学年一括採用が一番の問題ですね。採用にもっとバラエティが出てくればいいんですが、これは企業側の改革を待つしかないようです。

有村 カリキュラムの刷新が進んでいるのか、おもしろそうなタイトルの講義がいろいろあるんですね。

加藤 80年代に入ってから始まった大学改革は、そもそもカリキュラムの改革から始まったんです。学生たちが自分の関心事を自由に学べるよう、●教養部の廃止、●必修を減らして「アラカルト」方式とか「カフェテリア」方式と呼んでいる。自由度の高い単位取得システムの導入、●講義内容自体の刷新などが進められています。新しい学問領域をカバーする講義も増えていて、たとえば、女性問題を扱う講義は多くの大学で特殊講義の形で始

有村 マカレストという小さなカレッジに行ったのですが、まず、授業が10人から30人の単位で行われる。だから先生と生徒が話ができる。アサインメント(宿題)は1つ1つあるんですが、その代わり必修は少ない。3年生の単位を1年生で取ることもできる。このあたりの自由度と、学生を人間的にサポートする体制が大学の中にあるという点で、日本の大学との大きな差を感じました。きつかけられ、とてもいい経験でした。

加藤 留学は僕もよく経験しました。まず、各大学とも交換留学などの制度を取り入れて、受け入れも送り出しも活発に行っています。欧米の大学では「タスク」の運転手をしてお金を貯蓄したから大学に入るんだ」なんていう人もいて、学生の年齢に幅がある。学生同士で世代間交流ができる自由さは、非常にうらやましいですね。

有村 その点でいえば、日本の場合は労働市場の特性が大学のありかたに大きな影響を与えてしまっている……。

加藤 学年一括採用が一番の問題ですね。採用にもっとバラエティが出てくればいいんですが、これは企業側の改革を待つしかないようです。

有村 カリキュラムの刷新が進んでいるのか、おもしろそうなタイトルの講義がいろいろあるんですね。

加藤 80年代に入ってから始まった大学改革は、そもそもカリキュラムの改革から始まったんです。学生たちが自分の関心事を自由に学べるよう、●教養部の廃止、●必修を減らして「アラカルト」方式とか「カフェテリア」方式と呼んでいる。自由度の高い単位取得システムの導入、●講義内容自体の刷新などが進められています。新しい学問領域をカバーする講義も増えていて、たとえば、女性問題を扱う講義は多くの大学で特殊講義の形で始

有村 マカレストという小さなカレッジに行ったのですが、まず、授業が10人から30人の単位で行われる。だから先生と生徒が話ができる。アサインメント(宿題)は1つ1つあるんですが、その代わり必修は少ない。3年生の単位を1年生で取ることもできる。このあたりの自由度と、学生を人間的にサポートする体制が大学の中にあるという点で、日本の大学との大きな差を感じました。きつかけられ、とてもいい経験でした。

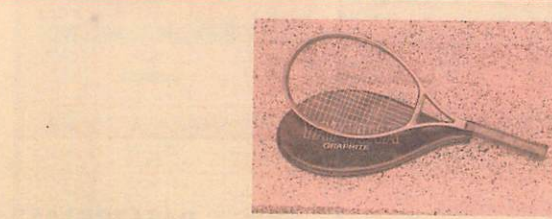
加藤 留学は僕もよく経験しました。まず、各大学とも交換留学などの制度を取り入れて、受け入れも送り出しも活発に行っています。欧米の大学では「タスク」の運転手をしてお金を貯蓄したから大学に入るんだ」なんていう人もいて、学生の年齢に幅がある。学生同士で世代間交流ができる自由さは、非常にうらやましいですね。

有村 その点でいえば、日本の場合は労働市場の特性が大学のありかたに大きな影響を与えてしまっている……。

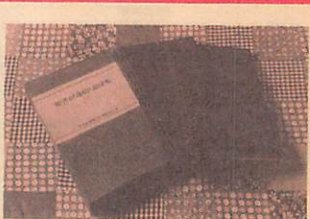
加藤 学年一括採用が一番の問題ですね。採用にもっとバラエティが出てくればいいんですが、これは企業側の改革を待つしかないようです。

有村 カリキュラムの刷新が進んでいるのか、おもしろそうなタイトルの講義がいろいろあるんですね。

加藤 80年代に入ってから始まった大学改革は、そもそもカリキュラムの改革から始まったんです。学生たちが自分の関心事を自由に学べるよう、●教養部の廃止、●必修を減らして「アラカルト」方式とか「カフェテリア」方式と呼んでいる。自由度の高い単位取得システムの導入、●講義内容自体の刷新などが進められています。新しい学問領域をカバーする講義も増えていて、たとえば、女性問題を扱う講義は多くの大学で特殊講義の形で始



【有村さんの大学時代】
いまもテニスが好きという有村さん。大学時代は「トマト」というテニスサークルに所属。「授業に出たのは1/3くらい。練習にはテニスをしに通っていたようなもの」。ブラウン管の向こうの清純なイメージの横顔は、水も楽しめスポーツウーマン。輝かに身のこなしは子供のようにはややか。東大でのいちばんの収穫は「人脈」です。これは本当にスゴイ。



【加藤先生の大学時代】
加藤先生の大学時代は週刊「東大新聞」の発行に明け暮れる毎日。その光栄した日々を共にした親友が大学助教授職を目前に交差する中で、彼等の研究論文と東大新聞に執筆した記事を集めて作った道徳論集がもっとも大切な思い出の品となった。その際、残された道徳のための有美基金を500人の仲間と設立。当時6歳だった彼女は今年、東京大学を卒業する。

2

日本における社会学教育は、各大学ごとに多様なスタイルをとっている。そもそも社会学（ソシオロジー）とは、生活の共同という観点から人間の社会生活を研究する学問のこと。19世紀初めころ従来の政治学や国家学や経済学の範疇では収まらない社会間がでてきたために社会をトータルにとかねえようとして生まれた学問わけですね。このソシオロジーという学問自体は、19世紀後半から20世紀の初め、マルクス、ウェーバー、デュルケムの辺りでほぼ確立していました。ソシオロジーでもっとえられなくなつた、さうして漸くで奥の深い現象を理解しようという衝動に基つて、1951年に創設された国立大阪大学で唯一の社会学部です。社会学部は狭い意味の社会学をは

最近、佐伯の大学にも、社会学をより広い分野からとらえようという動きが現れ、その多くは「国際」や「文化」をキーワードにしようとしています。本学部では3年前にすでに社会学部の一領域としての「国際社会学」という講座を設置しています。日本でまだ唯一の本講座では従来の狭い意味の社会学ではとらえきれない民族問題や外国人労働者問題などを多角的にとらえていくとしています。

そして現在、大学院レベルで設置を検討しているのが、それをさらに進めた「地球社会学」です。つまり、われわれは「地球社会学」です。

現代のさまざまな問題を総合的に理解できる学問

想像は見ておくが利く。そしてこの問題の対応に小国が利する。われわれの問題学部です。前の外国労働者問題にしても、都市問題、民族問題という視点から切ることでも、政治的視点で見ることもできます。つまり、特定の学問より、外国労働者問題という問題そのものに焦点を当てて、明らかにからアプロチをして全体像を明らかにしていくのが社会学部の学び方なのです。常に新しい問題を挑戦することによって、新たな手法を生み出してくる可能性を秘めた領域です。もちろん、例えば政経の専門的な政治学の授業では、欧米の政治学の理論が、ロック、ルソーといった古典も学ぶますが、そのうえで、その先に何を発見したかというのが、われわれにとって大切なことなのです。

人とは違った視点で物事を考える人におススメ

社会学部学生には、既存の学問に飽

は、さきより、割と型破りな人か、人々からよく通った視点で物事を見た人か、考える人が多いようです。受験勉強や学園社会に疑問を持っているような人にも向いていると思います笑。私自身、出身は東京大学ですが、その構成員と官僚養成に疑問を持ち、別の形の政治学を学んできたこと、自負があります。

基本的なテーマは学生自身が探ることが多く、社会や学際論の講義でルポルタージュの類を読んだり、都市問題を扱う場合フィールドワークを行ったりして、そうした中から自分が関心の持てる問題を見つけてもらいます。つまり、高校での勉強法を一回覆してもらうわけです。漫画の好きな人なら漫画から問題を見つけても構わない。ただ社会学部に入った以上、自分が好きな漫画を今度はその社会現象として見直してもらいたいという事です。実際に「日本漫画史」というテーマを卒業にした生徒もいますよ。

私が担当したゼミの今年度の卒論テーマをざっと挙げて、小林秀雄論旅とは何か、音楽著作権、日本スケーターの現状、震害ボランティア、将棋界の若手台頭……と玉手箱みたいにも出てくるんですけどね(笑)。学問を受験勉強的に覚えるというより、むしろ政治学的ゼミなら政治学的手法を身に落着けて多角的に問題を見る目を養ってもらうことが目的なのでテーマは何でもいいわけです。

本学部はある意味でとてもジャーナリストタイプです。実際に、就職先も一橋大学の中では異色なマスコミが多いですね。絶えず問題意識を持つ調練というのは大学に入ってからでも十分できるし、間口は無限に広がっています。だから、いまま、自分が何をやりたいか分からない人でも、社会学部にくれば少なくとも後悔はしないと思いますよ。

社会と国家
加藤哲郎著・2000

世間とは何か

昭和天皇の終戦

統合と分裂のヨ

アジアを食べる日

上水村 2500円/労働日

工業

に
まし
て

の
レット
工学
環境工

'97/

●資料請求先
埼玉工業大学入試課
〒369-02 埼玉県大里郡岡部町普濟寺169
TEL.0485-85-6814(直)

埼玉工業大学